

地域の各分野の専門家集団が文化伝承と農業継続の重要性を訴える

20. 遠州南部地区【静岡県掛川市、袋井市、磐田市】

範 囲		静岡県西部遠州灘に面した遠州地方南部に広がる 1,000haの広大な水田	
所 在 地		静岡県掛川市大須賀、袋井市浅羽、磐田市福田	
生 物 地 理 区 分		コナラ林(東日本)	
環 境 要 素		水田()、小川・水路	
自然条件	地 形	この地域には、北には緑豊かな小笠山丘陵、南には白い砂浜と松林が続く遠州灘、その間には山から海へ流れ込む川と広大な「とうもん」(稲面)が広がっている。	
	植 生・生物等	自然の宝庫小笠山丘陵から遠州灘まで、高低差はわずか 200m 程度だが、営まれている農業によって、多様な環境が作られ、豊かな生物相が見られる。 特にとうもんには、希少種が多数生息し、オオタカなどの鳥類を頂点とする独特の生態系が形成されている。	
			
		撮影時期：H19 年 7 月 千町歩の広大な田園地帯「トウモン」(語源は稲面 ^{とうも} とも田面 ^{たおも} とも言われる)にある「とうもんの里」	
社会条件	人口(市町村)	116,373 人(農家率 10.0%、副業的兼業農家が多い) 掛川市のデータ(H22年)	
	土 地 利 用	市総面積の 20.6%が田畑、42.7%が山林である。 掛川市のデータ(H22年)	
	歴 史・文 化	南遠州中央の山と海との間に広がる平野部は平安時代からの空間がほぼそのままに受け継がれてきたもので、この「とうもん」を囲む山、川、海、田畑、集落それぞれが深く関わり合いながら形成されてきた自然と文化と歴史が南遠州のふるさとの風土、「とうもん風土」を作り上げることになった。 【とうもん】という言葉は、「稲面(とうも)」または、「田面(たおも)」に由来するといわれ、「水田の広がり」を表すこの地域の言葉。	
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし	
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	「農業農村整備優良地区コンクール 農林水産大臣賞」受賞 静岡県「都市景観賞 優秀賞」受賞 静岡県「協働による農村村づくり表彰 最優秀賞」受賞	

遠州南部地区					
取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地元の外からの参加者が中心となった取組			
	主 体	名 称	概 要		
		NPO法人 とうもんの会	地域の歴史、生態系、農業、伝統工芸、伝統料理などの「地域の専門家」が集まった団体		
経 緯		とうもんの里は、豊かな自然と農業に培われた歴史、遠い昔から受け継がれてきた伝統や文化などを、未来の子供たちへ継承することを目的として整備された。抜けるような青空や大地の広がりを五感で感じることが出来るように、平屋の建物と櫓で構成されている。 またNPO法人とうもんの会が、「とうもんの里総合案内所」を拠点として、地域を訪れる方々や地域に住む方々に、地域で営まれる農業や農村文化の情報発信、体験交流に関する事業を行っている。			
支 援 措 置		該当なし			
取組の目的・目標		農業や農村文化の情報発信や体験活動を通じて、住む人が誇りを持ち、来る人との心豊かなふれあいを創造し、農業・農村のよさを守り伝えていく。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化	該当なし			
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし			
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自 然 観 察 会	野鳥観察会、田んぼの生き物調査等の実施		
		環 境 教 育 ・ 学 習 活 動	地域の歴史講座、小笠山の植物講座、星空観察会の実施		
		里地里山体験・環境保全	里山ウォーク・砂浜ウォークなどを通じ動植物の生態などの勉強会実施		
		農 林 業 体 験 活 動	茶摘み・田植え・稲刈り・野菜の育て方等の体験活動の実施		
		エ コ ツ ア ー			
		そ の 他			
	野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし			
	地域の良好な景観の保全・修復	自主企画の多様な体験プログラムや地域農産物の提供を通じて農業の大切さや地域の農村文化を伝え、都市と農村の交流を積極的に推進することにより、里地里山の景観や地域資源の保全や重要性のPRに取り組んでいる。また、農地・水・環境保全向上対策の構成員として、農村環境向上活動を実施している。田園空間整備事業（農林水産省補助事業）を活用し、地域資源の保全・整備等を実施している。			
	里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対 象	生 活 行 事	「地固めの舞」「田遊び」「郷土料理」「郷土の歴史」 【文化財指定】 三社祭礼囃子（県無形文化財第 1 号）地固めの舞・田遊び（県無形民俗文化財第 544 号）	
			資源利用技術		
			そ の 他	地域の歴史的農業水利施設の建造技術（十内垵）	
地域の豊作と農事の無事を祈って行われる「地固めの舞」「田遊び」など、農耕文化に起源をもつ伝統（祭り）について、地域の子供たちに説明している。また、体験プログラムや歴史講座の開催により、これまでに地域で培われてきた農、食、自然、歴史等の継承を行っている。さらに、歴史的農業水利施設が建造されるまでの苦労話を、子供たちによるミュージカルとして上演し、地域に繁栄をもたらした水利施設への理解を深めている。このほか、地域の食文化を紹介した冊子の発行や食加工講座など様々な取組が行われている。					
連 携 ・ 協 働		NPO法人とうもんの会は、組織そのものが協働集団として活動している。とうもんの会が都市部のホテルと協力して、出荷者の生産現場の見学や生産のこだわり、地元の料理法を勉強した後、ホテルでその農産物を使ったランチを食べるツアーを実施するなど、地域農産物の広報拠点として活動している。また、「ふじのくに食の都づくり仕事人」が参画した「とうもんの里食文化研究会」が発足し、食文化を伝承・継承している。			



撮影時期：H20 年 7 月

田んぼの生き物調査は、毎年 7 月と 10 月定点観察を専門家の指導のもと、子供たちと実施

撮影時期：H19 年 8 月

歴史的農業水利施設(十内坎)が建造されるまでの苦労話を子どもたちによる野外ミュージカルとして上演

景観としての 利用・評価

観光パンフレット等に写真が使用されている

風景探勝や撮影の来訪者が多い

H20 年の静岡県、県民だより 7 月号の表紙を飾った「トウモン」(水田)の写真は、200 通もの反響あり「農業者が少なくなって大変でしょうが、ぜひ残してほしい。」「我が原風景」などのメッセージが寄せられた。

取組の特徴

農業者の視点を大切に取組を展開、農業の健全な継続により里地里山の保全を図っている。

地域の歴史、生態系、農業、伝統工芸などの専門家が集まった団体が協働して活動している。野鳥観察会や夜間大学、農業体験など多様な体験プログラム、地元料理法や地域農産物の提供、農業水利施設の建造技術の伝承などを通じて農業の大切さや地域の農村文化を伝え、都市と農村の交流を積極的に推進することにより、里地里山の景観や地域資源の保全、その重要性のPRに取り組んでいる。

里地里山、農村の保全は、一時的な保全活動では意味が無く、地域の様々な生産活動が、健全に継続されることによって成り立つものである。そのためには、例えば農村地域であれば、農業が継続されるために地域の農作物が売れることが重要であり、そのために、NPO法人とうもんの会では周辺に居住している 100 万人たちに対して「農業や農村」を理解してもらう取組が展開されている。

【参照資料】

とうもんの里 HP (<http://www.toumon-s.jp/index.html>)

静岡県HP (<http://www.pref.shizuoka.jp/index.html>)